指定管理者総括調書（令和5年度）

基準日 令和6年3月31日

施設名	大牟田市動物園		
担当部署	産業経済部観光おもてなし課	電話番号	41-2750

I 指定管理者の情報

指定管理者名及び代表者名	西日本メンテナンス株式会社 代表取締役 清水 進		
指定管理者の所在地	福岡県大牟田市山上町2番地の2		
指定期間	令和3年	～	令和5年
		選定方法	公募
指定管理者種類	☒ 市内企業 ☐ 市外企業 ☐ NPO・ボランティア団体等 ☐ コミュニティ組織等 ☐ 財団法人・社団法人・社会福祉法人・医療法人・学校法人等 ☐ その他		
業務の範囲	1. 動物園の運営に関する事 (1) 園の運営に関する庶務 (2) 災害時の対応 (3) 入園者の誘致 (4) 広報・宣伝 (5) 入園者サービス 2. 動物の飼育管理に関する事 3. 動物園施設の維持管理に関する事 4. 大牟田市動物園サポーター事業の業務に関する事		

II 施設の情報

所在地	大牟田市昭和町163番地			施設の設置目的	動物に対する知識と愛護意識を深めるとともに、市民の憩いの場を提供するため。
設置年月	昭和16年10月	増改築年月	S50・53・54・55・57・58・60・62年、H3・4・9・10・19・23・27・29・30年、R1年		
施設の設置根拠	大牟田市動物園条例				
施設の概要	敷地面積	44,098	m ²	事務所、動物飼育舎、病院、売店、倉庫、便所、休憩所等 41ヶ所	
	延床面積	2,366	m ²		
実施事業の概要	休館日	毎月第2及び第4月曜日（その日が祝日の場合は翌日） 12月29日から翌年1月1日まで	開館時間	午前9時30分から午後5時まで（12月1日から2月末日までの期間は午後4時30分まで）	
	必須事業	・季節ごとのふれあい・体験を主体とした催事・イベント ・小動物のふれあい広場の常設開催 ・ふれあい時における自然保護、動物愛護、命の大切さ等の学習会の実施			
	提案事業	・動物福祉の啓発に係るイベント（ハズバンダリートレーニングガイド等） ・地域や地域団体との連携 ・ベビーカー・レインコート販売			
料金	利用料金制度	☒ 有 ☐ 無			

III 施設の利用状況

施設利用状況等の推移	区分		R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	
	単位	日						
開館日数	単位	日	335	297	250	341	337	
施設の総利用者数等	単位	人	216,969	152,993	152,427	172,235	157,429	
個別事業における利用状況等の推移								
自主事業収入（自販機・ベビーカー貸し出し等）千円			2,324	2,115	2,847	2,652	2,567	
<利用者数>								
大人／（個人）71,096人（団体）3,160人			107,209	77,313	75,083	83,077	74,256	
中人／（個人）210人（団体）5人			1,578	919	1,004	231	215	
小人／（個人）20,484人（団体）465人			22,290	21,431	14,940	17,251	20,949	
減免（半額、全額等）／16,064人			31,054	15,049	11,211	13,779	16,064	
無料／45,945人			54,838	38,281	50,189	57,897	45,945	
利用料金収入	施設の利用料金収入	単位	千円	43,047	31,844	36,836	43,851	39,699

IV モニタリング結果
管理運営評価シートの結果

評価結果	245点 / 300点	<table border="1"> <tr> <td>I 施設の運営</td> <td>124点 / 150点</td> </tr> <tr> <td>II 施設の管理</td> <td>96点 / 120点</td> </tr> <tr> <td>III 継続性・安定性</td> <td>12点 / 15点</td> </tr> <tr> <td>IV その他</td> <td>13点 / 15点</td> </tr> </table>	I 施設の運営	124点 / 150点	II 施設の管理	96点 / 120点	III 継続性・安定性	12点 / 15点	IV その他	13点 / 15点
	I 施設の運営		124点 / 150点							
II 施設の管理	96点 / 120点									
III 継続性・安定性	12点 / 15点									
IV その他	13点 / 15点									
	(平均: 4.1点)									

モニタリング項目に関するコメント

	コメント
I 施設の運営	法令等の遵守については、関係法令等も常備されており、職員にも周知徹底されている。 開園時間・休園日について、変更する場合には事前に市に承認を得て実施している。台風接近の際は、他園の状況等を参考にしながら、臨時休園等の措置を行った。 職員配置および研修については、班体制をとっており、体制に欠員が出る場合には、飼育員の勤務時間を調整し対応している。研修は月に一度、安全衛生会議を実施しており、職員間で情報の共有がなされている。他所で行われる研修にも積極的に参加している。 業務の改善面については、園に対する意見や苦情は、市に報告し速やかに対応している。その公表については、「動物が少ない」等、現在の飼育環境や動物福祉を根底から見直さなければならない意見も散見され、慎重な対応が求められることから、引き続き市と指定管理者で協議する必要がある。 市の指定事業については、適切に実施している。自主事業についても、動物福祉の啓発に係るイベント等、特色を生かした事業を実施している。 ワンヘルス啓発施設の認定やワンヘルス宣言事業所の登録を行い、ワンヘルスの啓発にも努めている。また、福岡県ワンヘルスマスター育成プログラムでも講義を行い、ワンヘルスマスターの育成にも寄与している。 動物園の利用促進としては、ホームページやSNSなどを使って、動物に対する取組みだけでなく、飼育員の働き方などの情報発信も積極的に行っている。
II 施設の管理	個人情報の取り扱いについては適正に行われている。動物園サポーターの事務手続き等で個人情報を取り扱う際にも、オフラインのPCを使い、個人情報の漏洩がないよう努めている。また、個人情報を含む書類やUSBについては、金庫保管としている。 緊急時の対策として、緊急連絡網がきちんと整備されており、職員間でも周知されている。避難誘導訓練については年2回実施している。 備品管理については、指定管理者の物品については、専用のシールが貼付され、市の所有物品と区別している。 施設の清掃、点検についても適正に実施されており良好である。異常があった場合には速やかに対応している。
III 継続性・安定性	経営状況については、すべての項目が基準を満たしている。
IV その他	オンライン等を活用したイベント、学校向けの講座等を実施するなど、動物園の認知度を向上させる取り組みを実施し集客力の向上を図っている。 ふれあいは動物側のストレスにつながることから慎重論が高まる中で、飼育員体験が人気イベントとなるなど、新たな視点で動物と向き合っていく取り組みを行っている。 動物の飼育については、飼育動物ごとに飼育日誌を作成し、それぞれの動物に応じた飼育方法を職員間で共有している。また、動物によって給餌方法を工夫したり、飼育環境を改善するなど動物福祉を重視した飼育方法を実践している。また、個人や団体からキリンの食餌となる樹木を集めるなど、食餌の確保等にも工夫した取組みが見られる。 動物が死亡した場合には、毎月の月例報告時に市へ報告している。

総 評

施設の運営については、おおむね適正に行われていた。

法令等の遵守・周知、開園時間・休園日の取り扱い、職員配置・研修についても問題なく行われている。施設の管理運営に係る要綱等についても適切な管理がされている。

自主事業については、動物とのふれあいだけでなく、動物をとりまく環境等についての展示や講演会等を実施している。動物福祉を伝える動物園として、オンラインイベントを活用しながら、一方でハズバンドリートレーニングや環境エンリッチメントの取り組みを継続して行っており、多くのメディアに取り上げられた。

福岡県ワンヘルス啓発施設の認定を受け、ワンヘルスの理念に基づいた取り組みや啓発に努められている。

利用促進に関しては、ホームページやSNSを活用した情報発信と、各種ふれあいイベント等、多彩なイベントを実施した。動画配信についても積極的に行っている。

施設管理については、毎月、安全衛生会議を実施し、職員間で情報共有がなされており、危険が予測される箇所は改善を行い、来園者の安全を図っている。また、修繕等が必要な箇所についても、適正な施設管理がなされている。

経営状況については、提出を受けた決算報告書の数値から健全であると判断できる。

ハード面の施設維持管理については、平成4年度のリニューアル以降、老朽化が進展している中で、動物園整備基本計画を策定し、令和8年度までにモルモット、レッサーパンダの飼育施設を整備することとしており、市と連携しながら取り組んでいただきたい。また、ソフト面については、「動物福祉」「命の大切さ」のコンセプトを保持しながら、「種の保全」や「市民の憩いの場」としての新たな視点をもって、取り組みを継続されており、その取り組みが多くの人から共感を得られている。

今後も動物福祉等の取り組み等をさらに充実させ、今後、一層の集客力の増加と動物園の魅力・来園者の満足度向上に努めていただきたい。